目次

最新情報 1
重要な注意項目（必ずお読みください） 1
推奨される外部ハードドライブ 1
ハードディスク内の状態を良好に保つために 1
タイムコードスレーブ時の録音について 1
ディスプレイサイズの変更方法について 1
取扱説明書のアップデート 2
取扱説明書の補足 2
取扱説明書の訂正 3
新機能 4
V1.20 の追加 4
V1.10 の追加 4
V1.04 の追加 5
V1.03 の追加 5
V1.02 の追加 5
メンテナンス項目 6
V2.02 の修正 6
V1.20 の修正 6
V1.10 の修正 7
V1.04 の修正 8
V1.03 の修正 8
V1.02 の修正 8
V1.01 の修正 8
既知の不具合 9
V1.20 における不具合 9
その他の項目 9
V1.02 の仕様変更 9
注意事項 10
V2.02 における注意事項など 10
V1.04 における注意事項など 10

最新情報

本機のファームウェアは、常に最新版をお使いいただきますようお願いいたします。最新のファームウェアに関しては、タスカムウェブサイト（http://tascam.jp）にてご確認ください。

重要な注意項目（必ずお読みください）

推奨される外部ハードドライブ

外部ハードドライブを使用される場合は、回転数が7200rpm以上で、かつドライブ内のキャッシュが8MB以上のものをお使いください。これ以下の性能のハードドライブでは、48トラックの転送ができないことがあります。
また、File>Drive Benchmarkingメニューにより、外部ドライブを日常的にチェックする事を強くお勧めします。

ハードディスク内の状態を良好に保つために

X-48は48トラック分の多量のデータをハードディスクへ読み書きするため、十分なデータ転送レートが確保できるように、ハードディスク内の状態を常に良好に保っておく必要があります。この事は、外部ハードディスクを使用している際や、88.2kHzや96kHzの2倍サンプリングレートで使用している際には特に重要です。
データ転送レートの不足によるエラーを防ぐために、日常的に下記の作業を行ってください。

- ハードディスクの1つのパーティション内に、同時に3～5個以上のプロジェクトを作成した場合は、次に新しいプロジェクトを作成する前に、一度全てのプロジェクトを削除し、そのパーティションをフォーマットしてから新しいプロジェクトを作成してください。
- 時間が長い録音を行う際には、まずハードディスクをフォーマットしてから新しいプロジェクトを作成し、録音を開始してください。

タイムコードスレーブ時の録音について

V1.04より録音動作を確実にするため、タイムコードスレーブ時において、アンロックの状態では録音のための操作を無効とし、録音動作には入らないようにしました。これは、TASCAM DTRSシリーズ機、およびMX-2424と同じ仕様です。タイムコードスレーブ時に録音を開始するには、X-48がロックしている状態（PLAY LEDが点灯している状態）で録音操作を行う必要があります。

ディスプレイサイズの変更方法について

X-48のディスプレイ表示サイズは、ワイドスクリーンや大きな画面にも対応するように変更が出来ます。Windows Menu>Display Settingsを選択すると設定画面が現れます。

取扱説明書のアップデート

バージョン1.04

取扱説明書の補足

サポートしているオプティカルメディア

X-48は以下のメディアをサポートしています。

DVD-R	リード/ライト
DVD-RW	リード/ライト/リライト
DVD+R	リード/ライト
DVD+RW	リード/ライト
CD-R	リード/ライト
CD-RW	リード/ライト/リライト

X-48は以下のメディアをサポートしていません。

DVD+RW　リライト
デュアルレイヤーメディア
音楽用として販売されているCD-RおよびCD-RW
CD-DAとして使用された事のあるCD-RW

クロックチャンネル

デジタルオーディオクロックを受信できるデジタルチャンネルは以下の通りです。

内蔵TDIF：	ポート1（チャンネル 1-8）
IF-AE24（X）：	スロット 1（チャンネル 1&2）or スロット 2（チャンネル 25&26）
IF-AD24（X）：	スロット 1（チャンネル 1-8）or スロット 2（チャンネル 25-32）

FireWireドライブのマウント

FireWireドライブをマウントするには、電源をオフにした状態でX-48に接続し、接続後に電源をオンにします。いったんアンマウントされたドライブを再マウントするには、電源をオフにしてからオンにします。

OSX ネットワークの必要条件

イーサネット経由でMacintoshコンピュータに接続するには、OS X 10.4.0以上であることが必要です。

X-48を起動する

USBフラッシュドライブを接続したままX-48を起動しないでください。間違えて起動した場合、正常に起動しない事があります。この場合、以下の操作を行ってください。

1. “Press F1 To Continue” のプロンプトが表示されたらF1キーを押します。
2. USBフラッシュドライブを外します。
   USBフラッシュドライブを外した後、X-48は状態をクリアするために、2、3回起動動作を繰り返す場合があります。

プロジェクトの転送：MX-2424からX-48へ

1. MX-2424上でFAT-32フォーマットされたMX-2424互換のSCSIドライブをコンピュータに接続します。
2. 下記のどれか1つの方法により、SCSIドライブ内のプロジェクトをX-48に転送します。
   A) X-48で使用可能な外部Firewireドライブへプロジェクトをコピーする。
   B) コンピュータとX-48をイーサネットで接続し、Drive Sharing機能を使い、コンピュータ上からプロジェクトをコピーする。
   C) コンピュータ上でプロジェクトをCDあるいはDVDに書き込み、そのディスクをX-48に挿入し、プロジェクトをコピーする。
3. X-48上で、File>Import Project...メニューを使い、コピーされたOpenTLファイルをX-48にインポートします。

シアタープレイモード

X-48のシアタープレイモードでは、あらかじめ設定したCueセクションを次々と再生します。劇場やラジオ局などで、トリガーに合わせて素材や効果音を再生するような使い方をするときに便利な機能です。
X-48をこのモードにするには、マウス/キーボード操作またはフロントパネル操作で、コントロールモードをシアタープレイに設定します。
このモードでは、Cueセクションを再生したり、希望のCueセクションにロケートすることができます。各Cueセクションは2つの時間情報（始点と終点）を持ちます。Cueナンバー 1はマーカー #0に設定した時間で始まり、マーカー #1に設定した時間で停止します。以後、Cueナンバー 2にはマーカー #2とマーカー #3が割り当てられ、Cueナンバー 3にはマーカー #4とマーカー #5が割り当てられる、というように続きます。
シアタープレイモードにする前に、プロジェクト内にCueセクションを設定しておかなければなりません。
シアタープレイを行うには、コントロールモードをシアタープレイモードに設定し、希望のプロジェクトをロードします（Cueセクションが設定済みであること）。プロジェクトをロードしてからシアタープレイモードを選択することもできます。
X-48が自動的に最初のCueセクションの始点（マーカー #0）にロケートします。プロジェクトに記録されているマーカーの数は偶数でなければなりません（例えば#00〜#07）。プロジェクトに記録されているマーカーの数が奇数である場合、トランスポートは最後のマーカーにはロケートしません。
PLAYボタンを押すと、X-48は最初のCueセクションの始点（マーカー #0）から再生を開始し、終点（マーカー #1）まで来ると、次のCueセクションの始点（マーカー #2）にロケートして停止します。この状態で再生の指示を受けると、このCueセクションの再生を行います。

フットスイッチをリアパネルのFOOT SWITCH端子に接続すると、フットスイッチを押したときに再生のトリガーが送られます。つまり、シアターモードでは、フットスイッチがPLAYボタンの役割を果たします。

BUSY インジケーター

フロントパネルのBUSYインジケーターが点灯しているときやVGA画面のカーソルが砂時計表示のとき、X-48はCPUやディスクに対して動作を行っています。この間、保存などの重要な操作を行わないでください。

トップパネルを外す

別売のI/Oカードとトップパネルのビスが同じものでない点にご注意ください。（カードを装着するためにX-48のトップパネルを外す場合 → 取扱説明書11ページ参照）センターおよびリアのトップパネルビスは4隅に使われているビスと異なります。元に戻すときに間違えないようにご注意ください。間違ったビスを無理にねじ込もうとすると、ビスやネジ穴を破損する可能性があります。

ADR モード

ADRモードでは、フロントパネルのAUTO INPUTボタンが点滅します。この状態でAUTO INPUTボタンを押すことによってADRモードをオフにすることができますが、ADRモードをオンにするには、フロントパネルのメニュー画面またはVGA画面を使います。

チェイスフリーホイール

チェイスフリーホイールを∞に設定することができます。この設定では、入力タイムコードに関わらず、X-48が再生/録音を続けます。

オーディオプール

X-48は、VGAディスプレイ上のWIndows>Audio Pool...メニュー、またはCtrl+Pのキーボート操作により、オーディオプール画面を表示します。オーディオプール画面では、現在開いているプロジェクトが参照している全てのオーディオファイルが表示され、且つ下記の操作が可能です。

- Relink：オーディオクリップが参照しているオーディオファイルが見つからない場合、そのオーディオクリップ名をクリックしてから“Relink”ボタンをクリックしてください。これにより、現状で見つからないオーディオファイルを探し出し、自動的に再リンクします。参照先のオーディオファイルが見つからないという状況は、File Managerなどで手動でオーディオファイルを移動したり、使用していた外部ドライブが外されていたりした場合に発生します。
- Rename：オーディオファイルのファイル名を変更します。この操作によりオーディオクリップとオーディオファイルのリンクが外れることはありません。
- Remove：オーディオファイルへの参照を削除します。そのオーディオファイルがもう必要無い場合などに使用します。

取扱説明書の訂正

表記上の誤り

- 6ページの「ご使用前に」中の「クイックスタートガイド」は「クイックリファレンスガイド」の誤りです。
- 9ページの「VIDEO（IN 、THRU）端子 」の説明で、「ブラックバースト信号の入力、スルー出力を行います。」と書かれていますが、トライレベルシンク信号にも対応していますので、「ブラックバースト信号またはトライレベルシンク信号の入力、スルー出力を行います。」に差し換えてください。
- 26ページ中の「プリ/ポストロール」の冒頭の説明が「リハーサル」の説明になっています。以下の説明に差し換えてください。

  オートパンチイン/アウト時のプリロールとポストロールの時間を設定することができます。パンチイン/アウト機能の詳細については「オートパンチ」（29 ページ）をご覧ください。
- 35ページの「オーディオファイルのネーミング」の説明を以下に差し換えてください。

  X-48は新規オーディオファイルに対して、プロジェクト名またはトラック名をベースにした名前を自動的に付けることができます。この設定はVGA モニター上でのみ行うことができます。LCDディスプレイではトラック名は表示されませんので、デフォルトではプロジェクト名ベースでオーディオのネーミングが行われます。オーディオファイル名のベースは、以下の手順で変更することができます。
- 39ページの「DSP」中の「Trackセクション」の以下の文を差し換えてください。

  （誤）またトラックの名前を付けるname フィールド、トラックソース/送り先の設定を行うためのinput/output メニューがあります。

  （正）またトラックの名前を付けるname フィールド、トラックの送り先の設定を行うためのoutput メニューがあります。
- 14ページの「TASCAM Mixer Companion（TMC）」で、「X-48にはTASCAM Mixer Companion（TMC）バージョン1.30がプリインストールされています。」と書かれていますが、X-48バージョン1.00では、TASCAM Mixer Companion（TMC）バージョン1.50がプリインストールされています。

バックアップ

1. 25ページの「プロジェクトをCD やDVD にバックアップする」の説明で、ネットワークをバックアップ先にすることができるように書かれていますが、バックアップ先は内蔵DVDドライブ、または別のハードディスクのみです。
2. 一度にバックアップできるのは、1つのプロジェクトのみです。

動作環境

X-48は、下記の温度範囲が動作保証範囲となっています。

動作温度：+5℃～+40℃

フットスイッチによる操作

取扱説明書の9ページおよび13ページで、フットスイッチを使うことにより足下操作でトランスポートコントロールやパンチイン/アウトを行うことができるように書いてありますが、X-48バージョン1.00では、シアタープレイモード時の再生スタート用にのみフットスイッチを使うことができます。

新機能

V1.20の追加

- 48時間までの録音が出来るようになりました。（ 0時を超えるタイムコードに同期した録音が可能になりました。）
- ビッグメーター（Big Meter）画面を改良しました。
- フットスイッチでPunch In/Outができるようになりました。（SETTINGS Windowの Transportページに **"Enable Footswitch Punch In/out"** が追加されました。）
- オーディオプールに Remove Unusedを追加、不要なファイルをディスク上から削除できるようになりました。
- I/O Marker Properties WindowをWindows Menuに追加しました。Loop Selection Punch In/Outの設定を数値入力及びCurrent Timeのキャプチャーでできるようになりました。
- Mixer画面で **"Level"** や **"Pan"** 等を直接数値入力できるようになりました。
- Mixer画面で **"Level"** や **"Pan"** の値を**Shift Key**を押しながら**Mouse**を移動するとほかのトラックにコピーできるようになりました。
- DSP画面で **"AUX SEND"**、**"DYNAMICS,EQUALIZER"** の値を直接数値入力できるようになりました。
- Theater Play中にリハーサルモードを追加しました。**REH**ボタンを押せば、リハーサルモードになり、Cueの途中からの再生が可能になりました。
- **"Disk Usage Display"** をOptions Menuに追加しました。**"RecordTime Remaining"** を選択するとHDDの残り容量の変わりに、録音可能な残り時間が表示されます。
- Automationデータの書き込み時に各Track画面にフェーダーの0dBのラインを追加、またカーソルの位置がフェーダーのVolume位置を示すようになりました。
- **"Automation Bypass"** をOptionsMenuに追加して、再生中にAutomationデータを無視できるようにしました。
- Marker Windowのサイズを変更できるようになりました。
- **"Color Setup windows"** をOptions Menuに追加しました。トラック画面での各部の色変更ができるようになりました。
- **"Time Counter Display"** のWindowを追加しました。Windows Menuから **"Time Display"** を選択すると表示されます。
- BWFのMetaデータ（Coding History）に記録Track番号など、詳細な情報を入れました
- 使用中のProjectのCopyが可能になりました。またCopy中にCancelが可能になりました。
- Wide Screen LCDモニターの使用が改善されました。
- Edit Region間隔が0の場合でも**P**キー（Edit Start Pointからの再生）が動作するようになりました。
- Shuttle（FF/RWD）時**Space**バーを押した場合の動作はPlayからSTOPに変更しました。
- MagnifyのツールボタンをDoubleClickすれば、全Projectが画面にフィットする適切のZoomで表示するようにしました。
- ２ｘFS時、VST Pluginがちゃんと動作するようにしました。
- MMCのDeferred Playコマンドに対応するようにしました。
- Over View画面ではTakeがあるRegionを表示するようにしました。
- Marker Windowで現在選択されているTakeのMarkerが常に表示されるように改善しました。
- ループポイントのCaptureが可能になりました。Keyboardから「f」と「t」でCaptureします。

注意：ループオンでないと、画面にループの範囲が表示されません。

- オーディオプールで複数選択ができるようになりました。

V1.10の追加

- 全48トラックのメーターを同時に監視することが出来るビッグメーター（Big Meter）画面を用意しました。
- フェイルセーフ録音（Fail Safe Recording：5秒ごとに更新）が可能になりました。
- クリアー・アンドゥ・ヒストリー機能（Clear Undo History）によって未使用で不要なオーディオファイルが消去整理出来るようになりました。
- プロジェクト名とトラック名からファイル名自動的に付けていく事が可能になりました。

  方法：Prefsタブの **"Audio File Naming"** settingにて **"Take#_Track#_ProjectName_TrackName"** を選択してください。
- LCDからのProject open操作において、.ndrファイル（プロジェクトファイル）以外も表示されてしまっていましたが、.ndrファイルだけ表示されるように見やすくしました。

- オートメーションのWRITEスイッチを画面に追加し使いやすさを向上させました。
- Destructive modeの表示をVGA画面上部中心部に追加し状態を監視しやすくしました。

  ※ X-48操作パネルのDestructive LED（SYSTEM-DEST REC）と同じ状態表示。
- ドライブ・ベンチマークテスト機能の追加によりサンプルレート毎に転送能力がトラック数の換算で表示されるようになりました。

  ※ ただし利用可能なトラック数は48を越える事は出来ません。

  方法：FileメニューのDrive Benchmarking,...からドライブを選択し実行が出来ます。
- MMCオープン・ループにしか対応していませんでしたがクローズド・ループにも対応しました。

V1.04の追加

- 録音動作を確実にするため、タイムコードスレーブ時において、アンロックの状態では録音のための操作を無効とし、録音動作には入らないようにしました。これは、TASCAM DTRSシリーズ機、およびMX-2424と同じ仕様です。タイムコードスレーブ時に録音を開始するには、X-48がロックしている状態（PLAY LEDが点灯している状態）で録音操作を行う必要があります。
- 新しいキーボードショートカットが追加されています。

  “I”キー：パンチインポイントを設定

  “O”キー：パンチアウトポイントを設定
- SettingウインドウのI/Oタブ内において、S/PDIF出力のモード設定として、“Professional”か“Consumer”を選択できるようになりました。
- Track画面の左側にあるトラック名設定部（Soloボタンの左）において、キーボードを使用して、トラック名のコピー（Ctrl+C）およびペースト（Ctrl+V）をする事が可能となりました。

V1.03の追加

- ファイルマネージャにおいて、フォルダおよびファイルのサイズが表示できるようになりました。フォルダまたはファイルをクリックし、選択されている状態にすると、右側にそのサイズが表示されます。
- X-48のネットワーク名を変更できるようになりました。このネットワーク名は、X-48とコンピュータをネットワーク接続している場合に、コンピュータ上に表示される名前です。変更するには、X-48のVGAディスプレイ上で、Fileメニューから“Set X48 Name”をクリックしてください。
- トラック画面のオーディオクリップ内の左上にそのクリップの名前が表示されるようになりました。
- Consolidate機能により統合されたオーディオクリップに名前を付けられるようになりました。Processメニューの“Consolidate”を実行すると、名前を付けるためのウィンドウが表示されます。
- OpenTLファイルのインポートおよびFile Manager上のでファイルのコピーの際に、進行バーが表示されるようになりました。
- AAFファイルをエクスポートする際に、embeddedタイプかnon-embeddedタイプかを選択できるようになりました。Fileメニューの“Export Project...”を実行するとエクスポート画面が表示されますが、ここでembeddeタイプのAAFファイルをエクスポートするかnon-embeddedタイプのAAFファイルをエクスポートするかを選択できます。下記にembeddedとnon-embeddedの説明をします。
  - embedded AAFファイルは、そのファイルの中に全てのプロジェクト情報と全てのオーディオファイルを持ちます。すなわち、1つのプロジェクト全体が1つのembedded AAFファイル（.aaf）に納められています。1つのAAFファイルのサイズは、2GBを越える事はできません。よって1つのプロジェクトの総データ量が2GBを越える場合は（トラック数が多い場合やクリップの時間が長い場合は）、non-embeddedタイプを選択する必要があります。X-48は、2GBを越えるプロジェクトをembedded AAFでエクスポートしようとすると、メッセージを表示し、エクスポート動作を中止します。
  - non-embedded AAFは、プロジェクト情報だけを持つ1つのAAFファイル（.aaf）と1つのフォルダに格納されたオーディオファイル群から構成されます。1つのAAFファイルは2GBを越えられない制限はembeddedタイプと同じですが、non-embeddedタイプはAAFファイル内にオーディオファイルを含みませんので、事実上サイズの制限はありません。

V1.02の追加

- ハードディスクの使用率（%）表示が、VGA画面上部のCPUメータの左側に追加されました。

メンテナンス項目

V2.02の修正

- 32ビット浮動小数点のオーディオ・ファイルをインポート/エクスポートできなかった不具合を修正しました。
- Tape mode時のConsolidateが正常に行われない問題を解決しました。
- Repeatedly設定時のundo動作を安定させせました。
- 複数トラックを選んでからwavファイルをインポートするとエラーが出る問題を修正しました。
- 前面パネルからのクイック・フォーマット操作が正常に行われなかったので修正しました。
- "Send AUX Returns" の送りが左チャンネルのみだった問題を修正しました。
- 録音中に矢印ボタン（▲/▼）を押すと録音状態が不安定になる場合がありましたがこれを修正しました。
- 48048Hzのプロジェクトを作成し、再起動するとプロジェクトが復帰できなくなる問題を修正しました。
- X-48で録音されたwavファイルにBWAVメタデータが含まれていなかった問題を修正しました。
- その他、システム全体の安定性を向上させせました。

V1.20の修正

- ごくまれにだが、Playボタンを押しても、非常に短い区間をループ再生したまま再生進まずにフリーズ状態になる不具合を修正しました。
- サイズの大きいBWFファイルのインポートが出来なかった不具合を修正しました。
- Consolidate実行後再生するとノイズが発生することがある不具合を修正しました。
- Marker WindowでLocボタンを押したらフリーズすることがあった不具合を修正しました。
- Big Meter等のTrack画面以外の画面を長時間開いたままにしておくと、表示がフリーズすることがあった不具合を修正しました。
- TrackのLockがSaveされない不具合を修正しました。
- Marker WindowでMarkerの名前を修正しよとするとフリーズすることがあった不具合を修正しました。
- AuxリターンのMIXをOFFにすると、Outputからの信号までMuteされる不具合を修正しました。
- Set Date and Time画面が表示されない不具合を修正しました。
- ごくまれにProject Load中にクラッシュする不具合を修正しました。
- ごくまれに不要なファイルを削除しようとしたらクラッシュする不具合を修正しました。
- ごくまれにHistory Listをクリーニングしょうとしたらクラッシュする不具合を修正しました。
- ごくまれにEdit中にクラッシュする不具合を修正しました。
- Fire Wireのハードディスクをハブ経由した場合に認識されないことがある不具合を修正しました。

注意：OS側Driver修正のため、CDからのインストールが必要です。

- Wide Screen LCDモニターの使用が改善されました。

注意：OS側Driver修正のため、CDからのインストールが必要です。

- Mixerオンの場合、Input MonitorにおけるLatencyを改善しました。
- ClipのCopy・PasteとUndoの関係による不具合を修正しました。
- ごくまれにShut Down中にフリーズする不具合を修正しました。
- 特定の操作によるオーディオクリップの移動がUNDOの操作履歴（HISTORY LIST）に残らない不具合を修正しました。
- Scrolling設定（Page Flip）がSaveされてない不具合を修正しました。
- Projectネームに "." を入れると本体LCDでは正しく表示されない不具合を修正しました。
- AUX returnのUnlinkボタンを削除しました。
- TC Chase中にTC CHASEを外すといつまでもTC Chaseのままで強制Stop後Playで再生できずという不具合を修正しました。
- MX-2424では正常に読むLTCが、X-48では読まなかったが、読めるように改善しました。
- TimecodeのOutput MutingをPlay only以外に設定した場合、Locateで正しくTimecodeを出力しない場合があった不具合を修正しました。
- File ManagerでDestinationをDVDにした場合はDeleteとBackupのみしか選択できないようにしました。
- RS-422でPunch Outした後Auto InputがONからOFFに変わってしまう不具合を修正しました。
- MIXER BYPASS OFF時のオーディオ信号のレイテンシーが大きくなった不具合を修正しました。
- Locate後Playキーを2回以上素早く押すと、ごく稀に音の出ないトラックがある不具合を修正しました。

V1.10の修正

- スナッピングがサブフレーム時、ループがオンの状態で、Loop in/out point間をI-Beamでロケートしているとフリーズに至ることがありましたがこれを改善しました。
- 連続する3つのオーディオクリップを1つのトラック並べた場合、期待通りでない再生をすることが有りましたがこれを改善しました。
- 2倍Fs時、オーディオクリップがトラックに1つも無い状態ではタイムコード追従が出来ませんでしたがこれを改善しました。
- キーボードのショートカットがCaps LockがONの時に機能しなかった問題を改善しました。
- ループ再生中、MTCアウトの時刻はループしないで連続更新してしまう問題を改善しました。
- マウスやキーボードを接続しない状況で、X-48のフロントパネルから製作し録音したプロジェクトにマウスやキーボードを後から挿入するとアプリケーションのエラーが発生する事がありましたが、これを改善しました。
- "Snapping" を有効にして "Subframes" を設定した状態で既に存在しているオーディオクリップ上にコピーバッファ内のデータを置くとトランスポートが奇異な動きをし、最後はフリーズに至る問題を改善しました。
- オーディオクリップがオーバーラップする箇所で再生が正常に行われない場合がある問題を改善しました。
- X-48から出力されるドロップ・タイムコードが外部機器にてノン・ドロップとして認識されてしまう問題を改善しました。
- AES 2Xモードの設定がX-48パネルのLCDとkey操作で出来なかった問題が改善されました。
- X-48起動時、Slot1にAES cardがあるとフリーズする時があった問題が改善されました。
- Load Last Projectがオンで、オートインプットがオフ時、96kHzで48tr録音し、プロジェクト先頭から再生すると、最初の2秒あたりでフリーズする事がありましたが改善されました。
- フロントパネルからの操作で現在使用しているハードディスクのボリュームがフォーマット可能だった問題を改善しました。
- Load Last Projectオン時、起動後プロジェクトが開かれると、12時以降にあったマーカー全てが12時ちょうどに設定されてしまう不具合が改善されました。
- 2GB以上のプロジェクトをOpenTLファイルでエクスポートしようとすると、"The exported file will exceed the maximum file size allowed.Try a non-embedded export." とAAFファイルに関連する間違ったメッセージが出ることがありましたがこれを修正しました。
- SONY P2コマンドを使って、タスカム ID REQUESTを行うとX-48であるにもかかわらず、MMR8のIDを使って応答していました。これを改善し、正しくX-48のIDを用いて応答をする用に修正しました。
- SONY P2コマンド対応機からX-48はコマンドを受信した場合、コマンドの返答としてのNAKを返さねばならないところを、間違ってACKを返していたのでいたのでこれを修正しました。
- SONY P2コマンドのシャトル/ジョグ速度とX-48の実際の再生速度が一致していなかった問題を改善しました。
- EXT MNT LEDが、プロジェクトを開く操作をすると消灯してしまっていましたが修正されました。
- TC CHASEボタンのLEDが不意に点滅してしまうことがありましたがこれを改善しました。
- フロントパネルからの操作でプロジェクトをコピーする場合、コピー先にXProjectsのフォルダが存在しないとコピーが機能しませんでしたがこれを改善しました。
- 外部ドライブをアンマウント（Unmount）すると、LCD表示がブランクになってしまう問題を解決しました。
- クロック設定がWORD以外の場合に、BNC INのmultiplier設定（/2,x2）が有効になる問題を解決しました。
- ある種の操作で録音したオーディオクリップが消えてしまうことがありましたがこれを解決しました。
- LCD画面からの操作でRelock Threshold設定ができない問題が解決しました。
- トラック・アームが全てオフのままトランスポートをRECにするとREC LEDが点灯になってしまった問題が解決され、点滅するようになりました。
- シアターモードにおいて、マーカー #0が00:00:00:00にある時、REWを押してもマーカー #0にヘッドが戻らない問題が解決されました。
- X-48がエクスポートしたAAFファイルをProTools 7.2-7.3でインポート出来ない問題が、ProTools 7.4との組み合わせでは解決されました。
- オーディオクリップがロックされているにもかかわらず、Crop, Insert time, Delete timeが実行できてしまった問題が解決されました。
- 現在のプロジェクトをバックアップし、その直後そのままリストアするとフリーズすることがありましたが、この問題を解決しました。
- 録音中にMixer Bypass settingを変更するとビープ音が発生したり、録音結果が途切れてしまうことがありましたが、これを解決しました。
- 録音中にパワーボタンを押すとシャットダウン処理をしていましたが、安全のため録音中はパワーボタンを受け付けないようにすることで問題を解決しました。
- ミキサー機能のAUXのプリ/ポスト切り換えとAux2, 4, 6が一部機能していませんでしたが正常に機能するようになりました。
- 2x sample modeでAESをクロックマスターにするとAESのAudioシグナルのLRが反転する問題が解決されました。
  ただし、2x sample modeでAESをクロックマスターにするとTDIFのLRは反転するのでその場合、クロックマスターにはWORDを選択してください。

V1.04の修正

- 録音時のVGA表示のCPU負荷を軽減するよう、プログラムを最適化しました。
- 非常に希なケースで、多数のトラックを再生時に、一部のトラックの再生音がずれる事がありましたが、改善されました。
- Destructiveモード時、録音の仕方によって、ハードディスク内に不要なオーディオファイル（サイズ0KB）が残る事がありましたが、改善されました。
- バージョン1.03では、フェーダーの操作によりオートメーションデータが更新されてしまう不具合がありましたが、1.04では改善されました。オートメーションデータは、トラック画面で、マウスを使用した場合のみ更新する事ができます。
- X-48がロケート動作した際、タイムコードの出力ミュート設定がPlay Onlyの場合でも、ロケート先の時間のタイムコードバースト（数フレーム分の連続したタイムコード）を出力していましたが、Play Only時は出力しないように改善しました。
- VGA画面最上部のステータス表示部（青色の部分）を明るく・見やすくしました。

V1.03の修正

- プロジェクトの作成/開く/セーブ時に、動作が不安定になる場合がごく希れにありましたが、修正を行いました。
- 以前のバージョンでは、ボリュームオートメーションの再生機能が動作しませんでしたが、1.03では修正されています。
- 以前のバージョンでは、NTFSフォーマットされた外部ハードディスクドライブにおいて、Windows OSのアクセス制限により、X-48で作成したフォルダおよびデータのコピー・編集ができませんでしたが、1.03では修正されています。この修正は、1.03以降で作成されたフォルダおよびファイルにのみ有効となりますので、1.02およびそれ以前のバージョンで作成されたフォルダやファイルに対しても修正を有効とするためには、下記の作業を行ってください。

  A）X-48ソフトウエアを1.03へアップデートしてください。

  B）File Manager上で、その外部ハードディスクドライブ内の全てのデータを別のバックアップ用外部ドライブへコピーするか、あるいは全てのプロジェクトをCDまたはDVDへバックアップしてください。

  C）FileメニューのDisk Management...を起動し、コピー元またはバックアップ元のハードディスクドライブをフォーマットしてください。

  注意：フォーマットしたドライブ内の全てのデータは消去されてしまいます。間違えてコピー先のドライブの方をフォーマットしないよう、ご注意願います。

  D）コピーしたデータをフォーマットしたドライブに戻すか、あるいはCD/DVDへバックアップした場合は、Restoreを実行してください。
- 以前のバージョンでは、2倍サンプリング周波数（88.2/96kHz）の時に、オーディオクリップが1つも無い状態では、タイムコードにチェイスできませんでしたが、1.03では修正されています。
- 以前のバージョンでは、オーディオファイルをインポートした場合、インポート元のオーディオが検出されている場合は、インポート元のオーディオを参照してしまうという不具合がありましたが、1.03では修正されました。
- 以前のバージョンでは、"Resolve To Video In" がオンの時に、ごく希にタイムコードチェイスがアンロックとなるケースがありましたが、1.03では修正されました。
- 以前のバージョンでは、複数のDVDまたはCDにバックアップを行う際に、システムが不安定となるケースがありましたが、1.03では修正されました。

V1.02の修正

- 以前のバージョンでは、X-48がMTCにチェイスできませんでしたが、バージョン1.02では改善されています。
- 以前のバージョンでは、X-48がBWF（Broadcast Wave File）をインポートする際、ファイル内部の時間情報のポイントに正しくインポートされませんでしたが、バージョン1.02では改善されています。
- 以前のバージョンでは、X-48起動後に、フロントパネルのTIME CODEのLEDが点灯しませんでしたが、バージョン1.02では改善されています。
- 以前のバージョンでは、CDまたはDVDの光ディスクからオーディオファイルをインポートできない場合がありましたが、バージョン1.02では改善されています。
- 以前のバージョンでは、Track Key Punch機能をオフにした場合でも、レックレディ 1-48キーによるパンチイン/アウトができてしまいましたが、バージョン1.02では改善されています。

V1.01の修正

- バージョン1.00では、Windowsメニュー＞Setting...項目のI/Oタブ上において、I/Oカード名が正常に表示されませんでしたが、この不具合は修正されています。
- バージョン1.00では、オーバーロードインジケータが自動的に消灯しませんでしたが、この不具合は修正されています。

既知の不具合

V1.20における不具合

- ネットワーク上からのディスクアクセスを許可するためにメニューのDrive sharing...を選択して設定しますが環境によって機能しない場合があります。この場合は、X-48メニューの"Disk Management" からウィンドウズのファイルマネージャーを起動し、該当フォルダのシェアリングを許可することによって多くのケースでは利用が可能になります。
- ADRを選択しオートインプットを有効にしてパンチイン・アウトを行うと、アウト時にオーディオ・モニター音が一瞬途切れます。
  ただしパンチアウトした録音結果には影響はありません。
- Mixer bypass設定をoffにすると、実際のタイムコード時刻とオーディオ再生に固定的な若干の遅れが生じます。
  他機器とのシビアなタイミングの再生を伴う場合は、MixerBypassをONに設定してください。
- Panasonic, Canopus SONY P2コマンドで問題がありCanopusからのある操作でX-48が意図せずPLAYになる報告がありました。

その他の項目

V1.02の仕様変更

シアタープレイモードの仕様変更

シアタープレイモードの操作に関して、下記の仕様変更を行いました。

- コントロールモードがシアタープレイの時にFFまたはREWボタンを押すと、ひとつ先またはひとつ前のキューの再生開始マーカーへロケートし、待機します。
- キューを再生中にストップボタンを押すと、その時点で再生が停止します。ここで更にプレイボタンを押すと、そのキューの再生開始マーカーへロケートし、更に再生を始めます。
- コントロールモードがシアタープレイの場合は、録音はできません。
- コントロールモードがシアタープレイの状態でマーカーが設定されているプロジェクトを開いた場合、X-48は自動的に最初のマーカーへロケートし、再生操作の待機状態となります。
- コントロールモードがシアタープレイの時、フロントパネルのLCDの2行目には、現在のキュー番号とそのキューに対応するマーカー番号が表示されます。

注意事項

V2.02における注意事項など

- “Normally Open”を選んだ場合、最初の一回目のフットスイッチ操作は応答しない問題があります。

V1.04における注意事項など

- 現在、US-2400のスクラブ/シャトルダイアルは、X-48のトランスポートエンジンと互換性がありません。
- バージョン1.03ではクローズドループMMC（MIDI Machine Control）をサポートしていません。オープンループMMCはサポートしています。
- X-48のフロントパネルのDISKインジケーターはオーディオ録音/再生中に点灯します。ドライブ間のコピー中やネットワーク操作中は点灯しません。
- ステレオAUXリターンを2つのモノリターンとして使用することはできません。
- IF-AD24（X）をX-48にインストールしたとき、S/MUX機能はサポートされません。
- ProcessメニューのConsolidate項目を使った結合機能は、8時間を越える長さをサポートしていません。
- ピリオド(.)を含むプロジェクト名はフロントパネルのLCDディスプレイに正しく表示されません。
- X-48からデジタル転送を行うときは、正しい転送レベルを得るためにI/O基準レベル（I/O Operating Level）を20dBに設定してください。
- 外部ドライブをアンマウントした後、LCDディスプレイがブランク表示になります。フロントパネルのショートカットボタン（SYNCボタンなど）を押してからCLEAR/HOMEボタンを押すと、通常の表示に戻ります。
- 24.975ビデオリファレンスは現時点で未チェックです。
- IF-AE24（X）からの2倍サンプリング周波数のデュアルライン出力はサポートしていません。
- X-48は1080pトライレベルシンクをサポートしています。720トライレベルシンクはサポートしていません。また1080Iは未チェックです。
- デストラクティブモードでは、録音を開始するときに、録音に必要なディスクスペースを計算し、更にトラック上の既存のオーディオファイルと新規に録音を開始するオーディオファイルを1つのオーディオファイルへ統合化していきます。このプロセスでは、多少の余裕を持ったディスクスペース計算を行いますので、録音開始時にディスク容量が足りないというメッセージ（“not enough disk space”）が表示される事があります。デストラクティブモードのプロジェクトで数多くのパンチイン/アウトを行うような場合、十分なディスクスペースが確保されていることを確認してください。
- 多くのトラックを同時に録音する場合、録音開始の数秒後にプレイヘッドの動きが一瞬停止する事がありますが、これは表示上のみの問題であり、録音動作には全く影響はありません。
- Consolidate実行中、VGA画面上にプログレスバーを表示するためのウインドウが表示されますが、このウインドウ上の“Abort”ボタンでConsolidateの実行を停止する事はできません。Consolidate操作をキャンセルするには、Consolidate実行後にアンドゥを行ってください。
- Consolidate実行中は、キーボード上のESCキーを押さないでください。ESCキーによりConsolidateの実行をキャンセルすると、システムが不安定になる場合があります。なお、このESCキー操作により、保存済みのデータが失われる事はありません。

インポート/エクスポート

- Apple Logic ProからエクスポートしたOpenTLファイルは、参照するオーディオファイルのフォーマットがSound Designer IIであるため、X-48にインポートできません。Nuendo 3からエクスポートしたOpenTLファイルはX-48にインポートすることができません。
- X-48からエクスポートしたOpenTLファイルはSteinbergのNuendoで開くことができません。OpenTLファイルでなく、AAFファイルをお使いください。
- MX-2424で作成してX-48にインポートしたOpenTLファイルは、Pro Tools互換AAFファイルに正しくエクスポートしません。X-48上で作られたプロジェクトは問題ありません。
- エクスポート先のオーディオファイルサイズが2GBを越えるAAFファイルのエクスポートはサポートしません。
- プロジェクトのインポート中にエラーが起きると、エラーダイアログが表示されます。エラーダイアログはマウスを使って閉じることができません。閉じるにはESCキーを押してください。
- OpenTLファイルのボリュームオートメーションはサポートしていません。
- 現在の開かれているプロジェクトのみ、OpenTLファイルまたはAAFファイルにエクスポートすることができます。
- OpenTLファイルのエクスポート中、プログレスバーは表示されません。
- X-48でエクスポートしたAAFファイルは、Pro Tools 7.3では正常にインポートされません。Pro Tools 7.1では正常にインポートされる事が確認されています。Pro Tools の次バージョンでの改善が期待されています。